

TOPICS
4京都保育福祉専門学院
学院長来訪ご利用者の心に寄り添うケアのために、
対人スキルを磨く職員研修を実施。

講義とグループワークの様子

「ご利用者に心から寄り添う支援を提供したい」と、特別養護老人ホームアリオンでは、対人スキルを磨くためのさまざまな職員研修を行なっています。

平成30年8月16日には、京都保育福祉専門学院の学院長である岡本匡弘先生を講師として招き、職員のモチベーション向上を目的とした研修を実施しました。

研修では、人は個性があり思いや考え方が異なること、世代によっても考え方は違うこと、学習を継続する重要性、個人情報とプライバシーの違いなどを学びました。

これからも、ご利用者にとってより満足度の高いケアに繋がられるよう職員一同、スキルアップに励みます。

TOPICS
5社会福祉法人風の馬
アリオン ボランティアとの交流企業ボランティアの皆さんがアリオンに来訪。
ご利用者とのふれあいを体験しました。

特別養護老人ホームアリオンでは、企業や地域の方によるボランティアを積極的に受け入れています。

平成30年8月7日、10月1日の両日、社会貢献活動に熱心に取り組む、ジブラルタ生命保険株式会社の方々が来訪されました。アリオンの職員から、施設概要や介護保険制度に関する情報、認知症の方とのコ

ミュニケーションのポイントなどをご説明した後、実際にご利用者とのふれあいを体験していただきました。

アリオンの職員も、他業種との交流は大変意義深く、ボランティアの方の傾聴する姿勢に学ぶことができました。ご利用者も職員以外の方との交流を喜んでいただき、充実した時間となりました。



ペガサス地域包括ケアセンター

場所：馬場記念病院 総合案内横

時間：平日9時30分～12時まで

健康のことから在宅介護まで。多様なニーズに対応する「なんでも相談」窓口を設置しています。まずはお気軽にご相談ください。

お問い合わせ／TEL:072-265-5558 (担当 平岩)

「なんでも相談」
窓口ありますペガサスグループ
株式会社ユニコ取り扱う紙おむつは
148種類。
大幅な値下げも
実施中です。堺市
紙おむつ
給付券
OK!●お問い合わせ
TEL:0120-062-505

私たちと一緒に働きましょう。

随時受付
しています

介護職員募集中! 正職員採用

いつでもご連絡いただければ、ペガサスグループの施設見学などへご案内します。どうぞお気軽にお問い合わせください。

障がいをお持ちの方、一緒に働きませんか

※障がい者手帳をお持ちの方。正職員への雇用変更もあり業務は、A)書類の印刷、製本 B)洗濯 C)清掃 D)データ入力 E)資料作成等。

お問い合わせ／馬場記念病院 人事課 TEL:072-265-9089

社会医療法人ペガサス公式 Facebook ページ
<https://www.facebook.com/s.m.c.pegasus>

seminar

11月 ペガサスセミナー

高齢者のスキントラブルと
その対策

～皮膚の特徴とスキンケア方法を学ぶ～

講師：ペガサス訪問看護OJTセンター
副センター長 森下 清美
看護師 阿武 美穂子

日時：11月21日(水)午後2時～3時

場所：馬場記念病院 1階ロビー

11月 ペルセウス介護
支援セミナー福祉用具を上手に利用し
「できない」を「できる」に
変えよう!!

講師：福祉用具専門相談員

井ノ上 聡子・木本 葉子

11月29日(木)午後2時30分～

日時：介護療養型老人保健施設

場所：ペルセウス3階食堂

11月 ペガサスセミナー
和泉流行シーズン突入!
インフルエンザに負けず
無事に冬を乗り越えましょう

講師：感染管理認定看護師 森田 恵美

日時：11月22日(木)午後2時～3時

場所：介護療養型老人保健施設エクス

11月 ロイヤルリゾート
健康相談会高齢者に不足しがちな
栄養素

日時：11月14日(水)午前1時30分～

場所：ペガサスロイヤルリゾート

ペガサスマンモサوندهー

開催予定

(毎月第2日曜日)

【開催日】(予定)

11月11日(日)、12月9日(日)

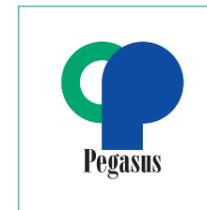
【開催時間】

9時～17時

【お問い合わせ】

TEL:072-265-6006

(ペガサス健診センター)

PEGASUS
NEWS

ペガサスニュース

発行人/馬場武彦
発行/社会医療法人ペガサス
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
<http://www.pegasus.or.jp/>
編集/ペガサス広報委員会 編集グループ
編集協力/HIPコーポレーション
発行/平成30年11月2日

Vol.82

ペガサスから地域の皆さまへ

がん化学療法に対する
カウンセリング室を新設。

アピランスとは、外見、外観という意味。アピランスケアは、がん患者さまの外見の変化に寄り添うサポートのことを言います。たとえば乳がんの場合、化学療法の副作用によりほとんどの方が脱毛してしまいます。それは一時的なことで、治療が終われば回復しますが、ご本人にとってはつらい時期が続きます。とくに仕事や子育てなどで出かける機会の多い方にとって大きな悩みになります。

そうした外見の変化を支えるために、馬場記念病院ではこの9月、がん化学療法に対するカウンセリング室を開設。当院でがんの化学療法を受けている患者さまを対象に、アピランスケアを始めました。ケアを担当するのは、がん化学療法看護に精通したがん化学療法認定看護師をはじめ、外来化学療法室で日頃、患者さまを支えている看護師たち。ウィッグや



手術後の下着やウィッグを展示

手術後の下着、人工乳首、帽子など、実物を手に取っていただきながら、どんなものを装着すれば良いか、丁寧にアドバイスしています。そのときに大切にしているのは、患者さまの暮らし方やご希望をよく把握すること。脱毛したからといって、必ずしも高額なウィッグが必要なわけではありません。それぞれのライフスタイルに合わせ、その人らしく社会生活を続けられるよう支えています。

また、ペガサスグループの職員全員がアピランスケアに対する理解を深め、患者さまに適切な情報を提供できるように「アピランス研修」もスタートしました。9月18日に行った第1回目の研修では、脱毛についての講義とウィッグの試着会を実施。多くの職員が興味をもって研修を受けました。第2回の研修では、化学療法中に生じる爪の変形、肌のくすみ

をテーマに取り上げ、ネイルケアやスキンケアについて学ぶ予定です。

内視鏡化学療法室 室長
金城ひとみ

アピランス研修で職員がウィッグを試着

相談室を
ご紹介!つむじ部分が地肌に近いタイプの
ウィッグ。手触り確かめられる人工乳首、帽子、リンパ浮腫対応の
弾性グローブ等も展示パンフレット等を用いて丁寧に
説明をする金城さん

動けない、歩けない、話せない… 多様な障害の改善をめざします。

馬場記念病院リハビリテーション科 副部長
ペガサスリハビリテーション病院 医師
後藤 正樹



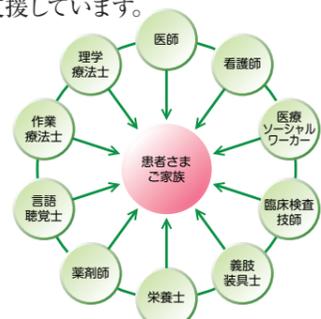
患者さまの障害を診るのが リハビリテーション科専門医。

内科や外科の専門医とは違い、リハビリテーション科専門医はどんなことをしているのか、わかりにくいかもしれません。リハビリテーション科専門医は、患者さまの障害を対象にします。動けない、歩けない、話せない、食べられない…といった多様な障害を診て、その解決法を考えるのが私たちの役割です。具体的には、運動学や生理学など幅広い知識をベースに、横断的、総合的に障害を評価し、それぞれに応じた物理療法や装具療法などを考えていきます。



超急性期から回復期まで ずっと見守っていきます。

リハビリテーション科専門医の診療は、超急性期から回復期まで続きます。超急性期では、必要に応じてリハビリテーション科専門医が診察し、どのようにリハビリテーションを進めれば良いか、療法士と一緒に検討します。回復期では、リハビリテーション科専門医がチーム医療の中心となって、集中的なリハビリテーションを提供。限られた入院期間内で、できる限り身体機能や基本動作能力を改善できるよう、チーム一丸となって支援しています。



「患者さま第一」の精神で チーム医療を進めています。

リハビリテーション科専門医として、私が基本に置いているのは「患者さま第一」の精神です。リハビリテーションは、実際に患者さまが動こうとしないと始まりません。どうすれば、患者さまが前向きになれるのか、患者さまにとって最善の訓練になるのか、医師、療法士、看護師などが集まって知恵を絞ります。また、リハビリテーションの質の向上も、リハビリテーション科専門医の重要な課題です。経験年数に関わらず、どの療法士が担当しても標準以上の成果を出せるよう、医学的な観点からアドバイス。障害が重い場合でも、動かせる部位や範囲があることを療法士に伝え、効果的な訓練につなげています。また、チーム内の情報共有を重視し、皆が相談・報告しやすい雰囲気づくりを心がけています。

脳卒中患者さまの 生活の再構築を支援。

院内外への情報発信として、 意識回復支援の事例を発表。

脳卒中の発症後に、後遺症がなく社会復帰できるケースは全体の2割程度。患者さまは、社会生活や家族の役割の中断、自信や自尊心の喪失、精神的な孤立など過酷な状況に置かれます。発症を境に、今までの生活が一変してしまうことは患者さまやご家族にとって受け入れがたいことです。そ

のため、発症早期からの看護師の関わりが非常に重要です。

坂本亜沙子看護師は、馬場記念病院SCU配属の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師。専門的な知識を活かし、さまざまな障害を抱えた患者さまに対して、その人らしい生活の再構築を支援するため、病棟看護師に対する教育、指導なども行っています。

さらに、院内外への情報発信として、医師、病棟看護師、セラピストらと協力し、患者さまの意識回復支援を行った事例を発表するなど、地域住民や、

医療関係者に対する知識向上にも貢献しています。

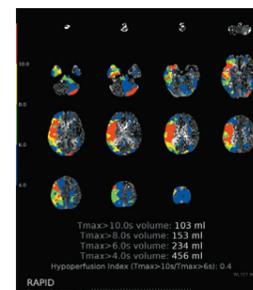
「患者さまは、誰かの大切な“人”であり、これまでの人生を培い、これからの未来がある“人”。尊敬や尊重する気持ちは、患者さまやご家族の力になると信じて看護をしています。急性期から生活期までの各ステージで、的確な支援をし、病棟全体の看護力を高められるように努めています」。(坂本)



TOPICS 1 脳梗塞治療 最新のCT解析ソフト導入

発症から6時間を超えた脳梗塞でも、 脳を救える可能性が広がりました。

脳梗塞の患者さまに対して、血管内治療(血栓回収術)を行うべきかどうか。その判断材料の一つとして、当院では造影CT検査を行い、専用のソフトでCT灌流画像(脳の血流分布)を解析しています。その解析ソフトとして、平成29年12月、米国・スタンフォード大学で開発されたRAPIDを導



入しました。これは、簡単に言うと「血栓回収術を行って脳を救えるかどうか」を数値で端的に示すもの。現在、日本で導入しているのは、当院を含めて2病院のみという最新のソフトです。

脳梗塞の患者さまに対する血栓回収術は、発症から6時間以内の施行が推奨されています。しかし、RAPIDを用いたRCT(ランダム化比較試験)によると、発症6時間以降24時間以内でも、血栓回収術を行った方が後遺症を軽減できたという結果が報告され、米国ではガイドラインに示され標準的な治療となっています。当院ではこうした最新の知見を取り入れ、発症から時間の経過した患者さまに対しても、RAPIDを含めた正確な診断に基づき、血栓回収術の適用の可能性をしっかりと探っています。



脳神経外科 副部長
救急部 部長 宇野 淳二

TOPICS 2 堺市立榎文化会館 脳卒中出張講演会・健康相談会 開催

身近な人に脳卒中が起きたら？ 一分一秒でも早い判断が命を救う。

馬場記念病院では、地域の各所で脳神経外科専門医による脳卒中出張講演会・健康相談会を行っています。平成30年7月19日は、堺市南区にある堺市立榎文化会館で出張講演会・健康相談会を開催しました。

当院では、24時間365日、脳卒中の治療に対応できるよう、脳神経外科専門医がスタンバイしています。実際に治療にあたる専門医より「一分一秒でも早い受診が命を救

う」という重要性をお伝えしました。参加者からは「時間との勝負が明暗を分けることがわかった。すぐに救急車を呼びたい」「何かあれば馬場記念病院へ…という医師の言葉を聞いて心強かった」という感想も寄せられました。



お問い合わせ/TEL 072-265-5568 (担当:平岩、吉田)

当院では、これからも地域に密着した出張講演会・健康相談会を行う予定です。事業所、自治会、商業施設等、開催のご要望があればお気軽にご相談ください。

TOPICS 3 ペガサスグループ 北米視察ツアー

米国の最新医療に学び、 医療・介護サービスの質向上に繋げる。

社会医療法人ペガサスでは、社会医療研究所が主催する「北米視察ツアー」に、毎年職員を派遣しています。今年も、看護師、薬剤師、介護支援専門員の3名が参加し、米国・オハイオ州クリーブランドの医療・福祉・介護施設及び教育機関を視察しました。

「米国では、医療者のみならず、患者さまやご家族も、早期に退院し地域で生活することを願っていたのが印象に残りました。看護師として患者さまやご家族の不安を充分にみ取り、入院中の早い段階で退院指導や



支援に繋げられたらと思います。(葛井 和子 看護師)」

「米国の薬学教育は、薬剤師が早い段階から臨床現場に出ることに備え、コミュニケーションやロールプレイングの教育が徹底されていました。当院でも、患者さまの服薬指導を正確に円滑に行えるように、コミュニケーション能力を高めるとともに、チーム医療の向上に努めていきます。(横山 英理 薬剤師)」

「医療保険のしくみの違いもあり、米国では医療にかかるコスト意識が医療者、患者さまともに高く、医療の質向上、早期退院・再入院のリスク軽減をめざしていました。自宅で長く過ごせることが、患者さまやご利用者の利益となることを理解し、私も現在の仕事に取り組みたいと思います。(赤澤 忠 介護支援専門員)」

ペガサスでは、北米視察においての学びを活かし、より一層、医療・介護サービスの質向上に努めます。

